

浮金小だより



発行：令和元年7月19日（金）

文責：浮金小学校長 松崎 健一

「元気で明るい自分たちの浮金小学校を創りましょう。」と第1学期の始業式で子どもたちに投げかけました。勿論、子どもたちだけが頑張るのではなく、我々教職員もそうするために努めてきました。いくつか振り返ってみると、運動会や高柴山遠足、5・6年生の宿泊活動など、大きな行事全てが天候に恵まれ、本校の特色である縦割り班活動が存分に生かされ充実した活動ができました。昨年度から実施している小小交流や見学交流も予定通り行われ、子どもたちは新たな友達を増やすことができている。このように大きな事故無く過ごせましたのも保護者・地域の皆様のご協力の賜と心より感謝申し上げます。しかし、まだまだ学校創りは十分ではないと感じていますので、課題を明らかにし、教職員一丸となって2学期の教育活動に取り組んでいき、子どもたちの「元気で明るい自分たちの浮金小学校創り」のさらなる実現を目指したいと考えています。



さて、いよいよ明日から子どもたちが待ちに待っていた夏休みが始まります。子どもたちにとって有意義な夏休みとなるよう学習・生活・安全について指導してきましたが、ご家庭でも配付されたプリントを基にお子さんにお話しくさるようお願いいたします。

見守り隊の皆さん 「ありがとうございます」 そして 「おめでとうございます」



浮金子ども見守り隊の功績が認められ、ニッセイ財団「生き生きシニア活動顕彰」として表彰されることになり、7月17日、福島県庁内にて贈呈式が行われました。見守り隊の皆様の日々の活動には、頭が下がると共に、感謝の思いで一杯です。今後ともよろしくをお願いいたします。



給食試食会・授業参観・危険箇所点検を実施！！ 7月5日（金）

給食試食会には30名の保護者の参加がありました。多目的ホールにランチルームを設置して実施しました。



授業参観・学年懇談の後、危険箇所点検を行い、危険箇所の現状と表示の確認をしていただきました。本日配付しました「浮金地区危険箇所マップ」を見ながら、お子さんと一緒にご確認ください。PTA 本部役員と補導厚生部の役員のみなさん、ありがとうございました。



<保護者の声>

給食と同じような味の濃さで家でも作るようにしようと思います。

いつも美味しい給食を子どもたちにありがとうございます。

箸の使い方が教えても上手にならず悩んでいます。

家庭の汁物との味の濃さがだいぶ違います。

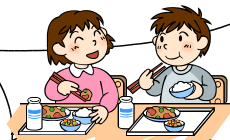
子どもたちが毎日楽しみにしています。

バランスも見た目も食欲が増加する様な給食でした。

家では進んで野菜を食べないので、給食でたくさん食べていて感心しました。

切り干し大根の炒め物の残りが多く驚きました。家庭でも、切り干し大根を使った料理を工夫したいと思っています。

中学生のお兄ちゃん、「今日の給食の〇〇、美味しかったね。」と話しているのをよく耳にします。毎日の美味しい給食に感謝です。



鯖の味噌煮とごま和えが、特に美味しかったです。

学校評価のご提出ありがとうございました

1学期の学校運営状況について保護者の皆様の評価をいただき、現在、集計と考察をしているところです。記述欄のご意見も読ませていただくと、急ぎ改善が必要などころもあります。貴重なご意見をありがとうございました。2学期末の学校評価ではポイントが上がるよう改善策を講じ努めていきます。

なお、今回の結果及び考察については、夏休み明けに文書で示したいと思っております。



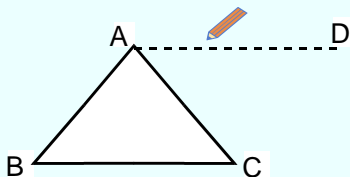
校長室より

先日、4月に行われた“ふくしま学力調査”の本校の結果が届きました。この調査は、福島県教育委員会が「個人の学力の伸びが分かる」ようにと、今年度より始めた調査で、中学校まで継続して実施するものです。小学校では4学年から6学年の子どもたちが、国語・算数・質問紙調査に取り組みました。今年度は1年目なので、個人の1年間の伸びは分かりませんが、本校の大きな弱点の一つが見えてきました。表現力です。頭では何となく分かっているけど、どう言葉にしていのか、どう習ったことを使えばいいのかわからないようです。今後の授業の中で、強化していかなければならないポイントです。

話が変わりますが、最近子どもの「ふつう」という表現が気になります。2つ紹介しますので一緒に考えてみましょう。さて、子どもが使う「ふつう」とは、どういうことでしょうか？

1つ目：A

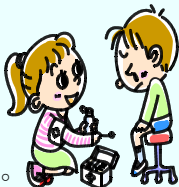
5学年算数科の「合同な平行四辺形をかこう」の授業の1コマです。平行四辺形は1本の対角線を引くと2つの合同な三角形でできていることが分かります。子どもたちは、習った“合同な三角形のかき方”で△ABCをあつという間に正確にかきます。あと頂点Dの位置が決まれば合同な平行四辺形の完成ですが、子どもたちは頂点Aから適当に直線を引き始めます。(よく見ると辺BCに平行にも見えます。何となく意識はしているようですが…)



そして、先生が「頂点Aからどんな直線を引けばいいのかな？」と問うと、「ふつうに直線を引けばいいんです。」と。もう一人も「どうやってと聞かれても、ふつうに引いたんです。」と。

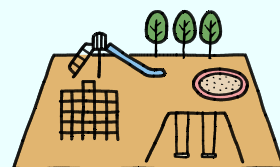
2つ目：B

ある日の昼休みのことです。保健室をのぞいてみると、ブランコが大好きな〇〇くんが手当てをしてもらっていました。肘などに擦り傷が見られます。どうやらブランコで遊んでいて落ちてしまったようです。〇〇くんに、「どんな乗り方をしていたの？」と聞くと、「ふつうに乗っていました。」と。ふつうに乗っていて落ちてしまうブランコとは…



さて、Aの話の続きです。子どもたちはノートのマス目に沿って横に直線を引いています。辺BCにほぼ平行な直線が簡単に引けてしまいます。だから頂点Aから真横に引く直線は「ふつうに引いた」となってしまいます。「頂点Aからは、いくらでもふつうの直線が引けるよ。」と指摘し、何本もかくと「ふつう」という表現ではだめなことに気付きます。授業の初めに、既に習っている平行四辺形の性質について復習したことに立ち返り、やっと「頂点Aから辺BCに平行な直線を引く。」という表現が出てきました。子どもたちもなるほどと納得です。

今度はBの話です。一緒にブランコで遊んでいた子に聞いてみると、〇〇くんは、ブランコをこいでる途中、帽子が落ちそうになって手でおさえたときに落ちてしまったことが分かりました。片手でブランコをこいでいてバランスを崩したということです。子どもには、自分の体の動きをイメージ(映像化)することが苦手な子があります。そうした子にとっては説明するのが難しく、何となく「ふつう」という表現で片付けてしまいます。私が「ふつうに乗っていて落ちてしまうブランコは危ないから使用禁止だね。」と言うと、〇〇くんは必死に状況の説明を始めました。今度は気をつけましょうね。



本校の大きな課題の一つが、言葉による表現力です。授業の中での指導も大切ですが、学校生活のあらゆる場面で指導する機会はたくさんあります。「話したいな、書きたいな」という状況や、「話さなくてはならない、書かなくてはならない」という状況を意図的に作って、子どもたちの表現力を伸ばしていこうと思います。勿論、家庭でもですよ。家庭の中にも、たくさん表現する機会があります。いや機会を作らなければなりません。お子さんが安易に「ふつう」と表現したときがチャンスです。是非、お子さんと楽しみながら表現力を鍛えてみてください。



それでは、楽しい夏休みを！！

ふくしま学力調査

子どもたちが自分の実力を知り、どれだけ自分が伸びたかを実感し、自信を深め、意欲を高め、さらに学力を伸ばすために2019年4月から福島県教育委員会が実施するものです。教科に関する調査は、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定し、小学校4年生から中学校2年生を対象に実施することで、学力の伸びを継続して把握することができる調査設計をしています。

- 学力の伸びは2020年度以降の調査から見るようになります。
- 調査項目は、国語、算数・数学、質問紙調査の3項目です。